

群 馬 県 立 富 岡 実 業 高 等 学 校			学 校 評 価 一 覧 表（令和6年度版）			（別紙様式）				
羅 針 盤			方 策	点検・評価		達成度	達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価		
評 価 対 象	評 価 項 目	具体的数値項目		自己 評価	外部 アンケー ト等	総合				
Ⅰ 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	①地域貢献活動に積極的に参加し、その活動を評価する生徒が80％以上である。	各学科が連携した特色ある教育活動を実施するとともに、地域活性化に向けた交流活動を充実させる。また、地域から認められ、信頼される学校づくりに取り組み、特色ある地域貢献活動等を積極的に情報発信することにより、生徒の自己有用感の向上を図る。	A	B	A	地域との活動を積極的に評価している生徒は75.6％であり、学校のことが好きと答えた生徒が83.1％であった。同じ項目の保護者は98パーセント以上、職員については100％であり、概ね目標を達成したといえる。地域活動に関しては、関わる生徒が一部に限定されている点が課題と考える。また、自分の学校が好きかという設問に対しては、保護者98.4％、生徒83.1％、職員100％が肯定的な評価であった。今後も生徒個人個人の特性を理解しながら、幅広い生徒に対応する教育活動を進めていく。	・専門高校としての特色を生かし、地域に貢献する教育活動を行うことができています。 ・ドローンを活用した測量調査、スマート農業に取り組み、次世代産業に取り組んでいることをアピールすることが必要である。また、富岡製糸場や宮崎公園等での花壇植栽は大変好評である。 ・興味や実態に応じた学科選択と各科の地域貢献を目的とした活動で生徒が高い満足感を得られている。 ・少子化が進み、生徒から選ばれる学校づくりが必要である。本校の強みや魅力を最大限に引き出して学校をブランド化し、「学びたい学校」「入学したい学校」を作り上げる必要がある。また、富岡製糸場での解説員となることで話題となり学校のブランディングにつながる。		
		②自分の学校が好きだと感じている生徒の割合は85％以上である。	生徒が興味や実態に応じた学科選択ができ、意欲的に専門学習に取り組むことができるよう支援する。また、専門高校としての教育活動を充実させ、魅力化を図るとともに、学校行事や学年行事等を工夫し、生徒が主体的に参画できるよう計画する。	A	A	A				
Ⅱ 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	③「授業がわかりやすい」と、生徒の85％以上が答えている。	生徒や学級に応じた指導や支援の実践に向けて、職員間で情報を共有して生徒がわかりやすく、主体的に学習に取り組むための授業改善を行う。	A	A	A	保護者96.1％、生徒92.4％が「授業がわかりやすい」と回答し、また職員の100％がわかりやすい授業を心がけている。学力に課題がある生徒が多いため、初期段階のわかりやすい授業をいかに次のステップにつなげるかが課題である。 資格取得指導に関しては、保護者90.6％、生徒92.5％、職員89.2％が肯定的な評価である。しかし、基礎学力を証明する資格については学校全体での合格率は低く、基礎学力の向上と合わせて社会一般で必要とされる学力をいかに身に付けさせるかが課題といえる。 授業への取り組みについては、保護者94.4％、生徒92.4％が肯定的な評価であった。職員の自己評価も94.6％で非常に高いが、教員側が研鑽を積んで授業の内容や方法等について、知識・技術を向上させていく努力を欠かすことはできない。 確かな学力を身に付けたかどうかについては、保護者75.0％、生徒87.9％、職員75.7％が肯定的な評価であった。全体として目標の7割は上回っているが、生徒の評価に対して保護者・職員の評価は低い。家庭学習の習慣化や勉強面での適切な目標設定をできるよう働きかけを進めていくことが、今後の課題である。	・様々な工夫をし、生徒の興味関心を高め、学力向上に取り組んでいる。 ・保護者や職員の評価が低い項目があるが、生徒は意欲的に学習活動を行い、職員の指導も適切である。 ・スマート農業の担い手育成、地元特産品の開発に取り組んで欲しい。 ・教職員が生徒目線で授業を工夫している様子が見え、生徒や保護者の多くが「わかりやすい授業」であると回答している。生徒が「楽しい学校生活」を情報発信することで志願者増加につながっている。 ・生徒及び教職員が前向きに学習活動に取り組んでいる姿を見ることができえる。 ・他校にはない資格取得があるとよい。また、資格取得の合格率が低いものもあるため、基礎学力向上が必要である。生徒を引きつける授業を実践することで学力向上につながるため、生徒にわかりやすく、より伝わるよう授業改善して欲しい。		
		④資格取得に向けた指導に、生徒の85％以上が満足している。	家庭と連携し、進路実現に向けて資格取得の有用性を生徒が理解できるように、きめ細やかな指導に取り組む。また、朝学習の時間を有効に活用し、様々な資格や検定の合格を目指して指導の改善を図る。	B	A	A				
	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	⑤意欲的に学習に取り組んでいると自己評価している生徒が80％以上である。	ICTの利活用や対話的な授業を実践し、生徒の興味や関心を喚起するとともに、生徒が自ら考え、課題を解決することができるように指導と評価を工夫する。また、授業を通して、課題解決能力とプレゼンテーション能力の向上を図り、発表する機会を設け、成果を達成させるよう取り組む。	A	A	A				
		⑥自己の目標に応じた学力を身に付けたと自己評価している生徒が各学年70％以上である。	生徒が明確な目標を設定し、達成に向けて主体的な学習や振り返りを実践できるよう働きかけを行う。また、知識や技術の習得のため、家庭学習が習慣化するよう、課題や評価を工夫する。	B	A	A				
		4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑦組織的な指導のため、生徒の情報交換を月に3回以上行っている。	職員会議や学年会で定期的に生徒に関する情報交換を行い、職員間で生徒の状況把握と情報の共有を図り、問題行動やいじめの未然防止に努める。また、きめ細やかな生徒観察を行い、生徒の変化や相談事は、必ず共有し、迅速かつ柔軟な対応を組織的に行う。	A	A			A	組織的・継続的な指導においては、職員会議や学年会だけでなく、教科担当や部顧問など生徒の気になることがあればすぐに担任・学年・生徒指導・管理職と情報共有を図ることができた。月に3回以上の情報交換を次年度も継続し、問題行動やいじめの未然防止を実践していきたい。 いじめを意識して相手を思いやって学校生活を送れている、いじめ防止活動の実践をしている生徒が95％以上の評価であった。生徒に関する些細な情報を生徒や教職員間などで早めに共有できたり、校内の短時間での研修や集会などで全校にいじめの定義を何度も伝達したりすることで1人1人のアンテナを高くすることができた。 様々な不安や悩みをかかえる生徒に対して、早期にスクールカウンセラーの利用を促した。その結果、生徒はカウンセリングにより不安や悩み、人との係わり等への最善の対応や判断ができるようになり、教育相談係では、個々の生徒状況にあったサポートができたと評価できる。 健康に生き生きとした生活が送れるためにも、スマートフォンの利用や食事、睡眠などの重要性を関連する授業や集会、行事などで伝えてきたが、生徒の35％が適切でないと感じている。今後も県教委や関係機関からの資料を有効に活用し、保護者と連携して根気強く生活習慣の重要性を伝えていく必要がある。 校則の見直しは、適宜行っているが、校則に関する意見を多数いただいた。これからも社会情勢や子どもを取り巻く環境、そして本校の教育目標に照らし合わせて、変更する利点や重要性とリスクなどをしっかりと検討しながら、今後も見直しを継続していきたい。
			5 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。	⑧いじめをしない許さない態度を身に付け、いじめ防止活動に主体的に取り組む生徒が90％以上である。	生徒が主体的に取り組むいじめ防止標語づくりや生徒目標の立案などを通して、生徒一人ひとりがいじめ防止活動に参画する意識をもてるよう指導を実践する。また、アンケートや面談を工夫し、生徒や保護者が相談や報告がしやすい環境づくりに取り組む。	A			A	
6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	⑨心身に悩みや不安を抱えている生徒が、スクールカウンセラーの利用により悩みや不安が改善された、軽減されたと評価する生徒が80％以上である。	生徒観察と情報共有を積極的に行い、気になることや不安を抱えている生徒や保護者には早期に専門家であるスクールカウンセラーの利用を促す。また、教職員、家庭、教育相談係、関係機関などと連携を取りながら、生徒が安心安全な学校生活を送ることができるよう、雰囲気やいじめの未然防止に努め、サポートを行う。	A	A	A					
	⑩毎日朝食を摂ることや睡眠時間の確保など、健康に留意した生活を送るよう意識している生徒が80％以上である。	授業や講演会を通して、健康について意識を高め、規則正しい生活習慣や安全なスマートフォン等の利活用が身に付けられるよう関係機関などと連携した指導に取り組む。	B	B	B					
Ⅳ 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 計画的な指導を行っていますか。	⑪進路に関する行事が進路選択に役立っていると評価する生徒が85％以上である。	進路ガイダンス、進路講演会、企業見学、インターンシップなどを通して、生徒が希望する進路実現に向けて必要な情報収集や体験の場を提供し、生徒及び保護者が満足するよう指導を充実させる。	A	A	A	進路講演会、進路相談会などの進路諸行事は役に立っていると肯定的に回答した生徒が91.4％、保護者が91.6％、教職員が97.3％と多かった。適性検査、基礎力診断テストが設けられていると答えた生徒が90％、保護者が73.3％、教職員が75.7％と生徒と保護者、教職員で認識の違いが見られた。また、挨拶やコミュニケーションについて積極的に取り組んでいるか、との問いに対しては生徒が88.7％、教職員が94.6％となりやや認識の違いが見られた。保護者の回答では、お子さんは希望の進路実現に向けて積極的に取り組んでいますか、の問いに対して72.2％が取り組んでいるとの認識で、3割弱の保護者が生徒の取り組みを不十分と回答した。これらの結果を踏まえ、保護者との定期的な情報交換を強化し、適性検査や基礎力診断テスト等の役割と重要性を説明したり、保護者が生徒の能力や興味に応じた進路選択をサポートできるよう支援したりときめ細やかな指導に取り組む。生徒に対しては、挨拶やコミュニケーションに関する指導を強化していく。また、本校の生徒は多様な進路を希望するため、個別の対応を強化し、進路に関する不安を抱える生徒や保護者へのサポートを実践していく。	・進路実現に向け、生徒との対話や指導を充実させて欲しい。 ・進路指導結果や校内外での生徒の実態から、十分な進路指導が行えていると評価する。生徒、保護者、教職員の意識のズレの改善が重要である。 ・インターンシップの充実が必要である。 ・生徒が主体的に取り組むことを重視し、卒業後に力強く生き抜くための指導は高く評価できる。 ・適性検査等の有効性を説明する必要がある。挨拶やコミュニケーションにおいて地域では好評を得ているが、更により評価得られるよう継続した指導を願いたい。また、子どもとのコミュニケーションに不安や困り感をもつ保護者もいるため、高校生の心理や適切な接し方を学ぶ機会があるとよい。 ・「不十分」と評価する意見を認識し、改善に取り組んで欲しい。		
		8 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	⑫自己の適性を理解し将来の職業との関連について考えている生徒が80％以上である。	適性検査や基礎力診断テストなどにより、生徒が自己の強みや興味、適性を把握し、自己に合った進路選択をすることができるよう、検査結果や評価を的確にフィードバックし、生徒が自己分析・自己理解を深めるための指導を実践する。	C	B			B	
	⑬挨拶やコミュニケーション等を進んで行い、進路実現に向けて積極的に取り組んでいる生徒が85％以上である。		社会人として必要な挨拶やコミュニケーション能力を習得させ、地域から信頼される人材育成に取り組む。また、職業探究活動、企業見学、インターンシップ、進学・就職対策講座などに積極的に参加し、生徒の進路選択についての知識やスキルを深められるよう指導する。	A	C	B				
Ⅴ 開かれた学校づくりに努めていますか。	9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑭PTA活動や学校行事等に1回以上参加している保護者が80％以上である。	連絡メールやホームページを工夫し、家庭や地域へ向けて本校の特色ある教育活動を情報発信するとともに、授業参観やPTA行事、販売会などを再検討し、保護者が参加しやすい行事となるよう内容や日程を改善する。	A	A	A	保護者はホームページやメール配信に対して87％が肯定的、また、PTA活動については89.4％が肯定的な評価である。また、職員の自己評価も同様に高く、前者が100％、後者が97.3％であり、方針に示した内容に対して適切に運営できていると評価できる。次年度も同様に適切な運営を心がけるとともに、更なる工夫と改善に取り組む。	・本校の活躍がよく分かる。 ・「開かれた学校づくり」というレベルを超え、「地域とともにある学校づくり」ができています。 ・地域住民との交流活動や農産物販売が充実している。 ・生徒や保護者が相談しやすく且つ来校しやすいように工夫されており、望ましい環境が整っている。 ・生徒の意見を尊重し、常にスキルアップを目指して満足度向上に向けた姿勢は素晴らしい。 ・様々なSNSを有効に活用し、本校の魅力を情報発信し「行ってみたい学校」「生徒や保護者から選ばれる学校」になって欲しい。		
		⑮授業公開、学校からのメールや配布物、ホームページの閲覧等を通じて、保護者の80％以上が学校の様子を理解できている。	保護者が、学校や生徒の活動をより理解しやすいように、ホームページの内容やレイアウトを充実させるとともに、TOPICSやお知らせを速やかに更新する。また、連絡メールを有効に活用し、適切に情報提供できるよう工夫する。	A	A	A				
Ⅶ 教育デジタル化に努めていますか。	10 ICTを活用した指導を行っていますか。	⑯ICTを活用した授業に、生徒の80％以上が満足している。	職員研修会や相互の授業観察を充実させ、ICTの活用により、効果的な知識や技術の習得が実感できるような指導と評価を実践する。授業アンケートでICTを活用した授業の効果を項目として設定し、教職員の活用と効果について随時点検と評価を行う。	A	A	A	アンケート結果は、いずれも90％以上が肯定的な回答をしている。ただし、生徒の意見として、授業でのより積極的な使用や専門性の高い活用方法を求める意見がある。ICT機器に関しては絶えず機能やソフトウェアが更新されていくため、研修を通して教員も常にスキルアップを心がける必要がある。	・今後もICT機器の活用を進めて欲しい。 ・ICTの活用はこれからの時代に重要であり、しっかりと取り組んでいる。ICTの使用が目的とならず、ICTを道具の一つとした手段として使用できるよう今後も留意して欲しい。 ・DXやICTの活用に向け、最新技術の習得に期待する。 ・企業もPCスキルを有する人材を求めている。我が国のICT教育は他国より遅れているため、積極的にICT教育を進めて欲しい		
	11 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	⑰ICTを活用した通知に保護者の80％以上が満足している。	連絡メールやホームページを活用した配布物やアンケート調査の業務改善を継続するとともに、より効果的なICTの活用に向けて保護者から情報収集を行う。	A	A	A				